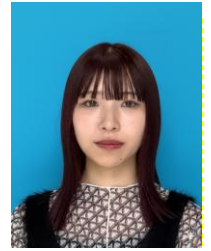


つくる日常、ひらかれる暮らし

ー創作が生む異世代の関りのかたちー

Keywords

コミュニティ ギャラリー 高齢者
単独世帯 孤独



DZ22132 大澤 弥央

1. はじめに

大人の居場所は、子どもの頃に比べて少ないと感じる。学生時代は、家族、学校、部活動、アルバイトなど、複数のコミュニティに属し、人との関わりや支え合いの中で日常生活が成り立っていた。しかし社会人になると、自宅と職場を往復する生活が中心となり、他者との接点が減少する特に大都市圏においては、個々の生活領域が明確に分断され、近隣との関わりが生まれにくい環境が形成されており、孤独を感じる人は少なくないのではないだろうか。

2. 研究背景

2.1 東京都の単独世帯

近年、単独世帯は全国的に増加しており、全世帯の約40%に達している。特に東京都では50%を超え、全国でも突出した割合となっている。

この傾向は今後も続くと予想されており、未婚率の上昇や晩婚化の進行にも影響を与えている。

2.2 単独世帯の年齢層

図1に単独世帯率の推移と65歳以上の単独世帯数の推移を示す。単独世帯の割合は、年々上昇している。その中でも、就職や大学進学を機に一人暮らしを始める20代が最も高い。また、高齢者単独世帯の数も年々増加しており、2040年には、高齢世帯の約40%が単独世帯になると予測されている。

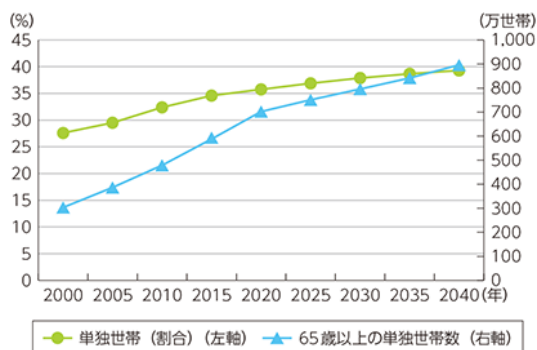


図1 単独世帯率の推移と65歳以上の単独世帯数の推移
総務省より引用

2.3 高齢者の単独世帯

単独世帯の課題は、環境の変化により一人暮らしを始めた若者のコミュニティの欠如だけにとどまらない。も

う一つの大きな課題として、高齢者の単独世帯の増加が挙げられる。高齢者は人との関わりが少なくなると、脳への刺激が不足し、認知症のリスクが高まるだけでなく、その進行にも気づきにくくなる。図2に高齢者単独世帯自宅での孤独死数を示す。体力の低下に伴う活動量の減少は、生活意欲が低下を招き、精神的な孤立やうつ状態、さらに孤独死の増加といった深刻な社会問題へとつながっている。

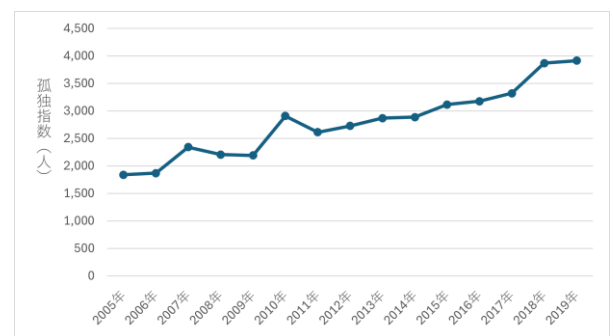


図2 東京都監察医務院で取り扱った
高齢者単独世帯の自宅での孤独死数の推移

2.4 コミュニティに属することによる高齢者の介護リスクへの影響

日常的な手助け、悩みの相談など、社会的サポートの教授が高齢者の良好な影響を与えることが確認されている。単独世帯など、家族のサポートがない場合でも、近隣の友人とのサポートのやり取りがあれば、男性で15%、女性で11%要介護認定リスクが減少することが判明している。

3. 設計目的

本設計では、単独世帯の高齢者と、地元を離れて都市に暮らし、自宅と職場を往復する生活の中で自分の居場所を見出せずにいる若年単独世帯を主な対象とする。両者がに関わり合い、世代を超えたコミュニティを形成するきっかけとなる場とする。

4. 敷地概要

4.1 対象敷地

対象敷地は、東京都武蔵野市の吉祥寺南町とする。

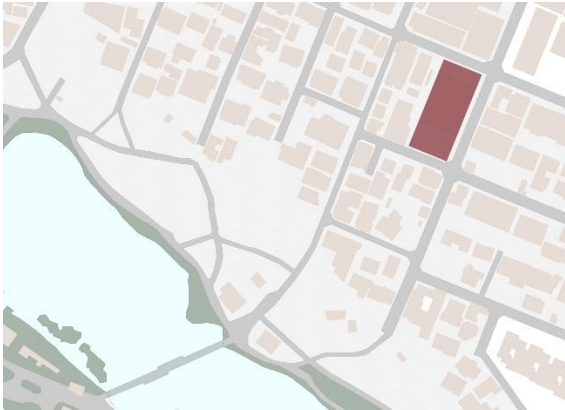


図3 対象敷地

吉祥寺は、多くの飲食店が並び、井の頭恩賜公園など都心とは思えない自然に恵まれ、住みたい街ランキングでは常に上位に君臨し、若年層の憧れの街とされている。また、商業施設や商店街、病院などの福祉施設も充実しており、多くのことが吉祥寺で完結することから、移動が困難になる高齢者からも人気の街となっている。

4.2 敷地分析

(1) 単独世帯の割合

図4に吉祥寺の単独世帯と高齢者単独世帯の割合を示す。本町・北町・東町・南町・御殿山の中で、単独世帯の割合が最も高い地域は本町であり、全体の63.4%を占める。一方で、高齢者のみの世帯は15.4%にとどまり、若年層の単独世帯が多い地域であると考えられる。北町は単独世帯の割合が38.7%と最も低いが、高齢者のみの世帯が19.8%と最も高い。また、子どものいる世帯の割合も高く、ファミリー世帯が多く暮らす地域である。南町は単独世帯の割合が54.9%、そのうち高齢者のみの割合が18.5%と、吉祥寺エリアの中で平均的な水準に位置している。若年層と高齢者の単独世帯が程よく混在しており、世代を超えた交流や共生の可能性を持つ地域であると考えられる。

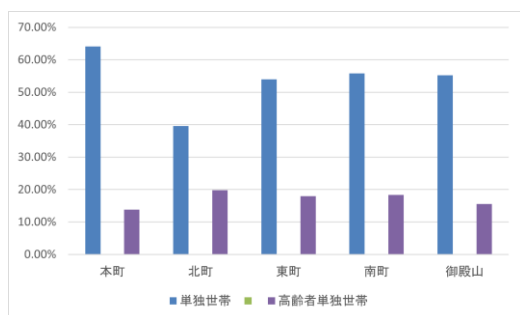


図3 吉祥寺の単独世帯と高齢者単独世帯の割合

(2) 敷地調査

南側には井の頭公園があり、公園へ向かう動線上には多くの人々が行き交う。古着店やカフェが並ぶ通りには若者が集まり、活気のある雰囲気を形成している。一方で、その通りから離れるにつれて人通りや店舗数は減少

し、落ち着いた住宅街が広がる。対象敷地は、商業地域と住宅地域の境界に位置しており、賑わいと静けさの両面を併せ持つ特徴的な環境にある。

5. コンセプト

本計画は、都市で活動する若年単独世帯のクリエイターと高齢者単独世帯が、創作と日常生活を介して緩やかにつながる集合住宅の提案する。住居に加えてカフェに、アトリエ、ギャラリー、ショップといった機能を複合させる。創作を見る・支える・関わるという関係性を日常化することで、世代を超えた見守りや役割のあるコミュニティが自然に形成される建築を目指す。

6. 設計プログラム

若年単独世帯のクリエイターの住戸にアトリエ機能を併設し、制作の場を建築の中心に据える。また、ギャラリー、ショップ、カフェを配置し、居住・制作・展示・滞在の機能が連続する動線計画とする。

6.1 地域性とコミュニティの生成方法

吉祥寺は、多様な文化や人々の個性が共存する街であり、夢を追う若者や表現者が多く集まる場所である。本計画では、こうした吉祥寺の特徴を踏まえ、集合住宅の中にギャラリー、ショップ、アトリエ、カフェといった創作・交流機能を取り入れる。これらの空間は地域の人々や来訪者に開かれると同時に、住民同士が日常の延長で関わりを持つきっかけとなる場として計画する。来訪者は、カフェでくつろぎながらアトリエでの制作風景やギャラリー展示を眺めることができ、創作を「鑑賞する日常」を体験する。ギャラリーでは入居者のクリエイターが作品を展示し、ショップでは小規模な販売を行うことで、創作活動が街へと開かれていく。一方、カフェは通常営業時には来訪者の滞在の場として機能し、定休日や未使用時間帯には、高齢者の地域コミュニティ食堂や、アトリエや展示をきっかけに生まれた関心から展開されるクリエイター主催のワークショップの場として利用される。住民と地域、来訪者、そして世代の異なる人々が緩やかにつながることで、建築そのものが新たなコミュニティを生成する場となることを目指す。

参考文献

- 1) 国勢調査「日本の世帯数の将来推計（全国推計）2018年推計」
https://www.ipss.go.jp/pp-ajsetai/j/HPRJ2018/hprj2018_gaiyo_20180117.pdf
- 2) 公益財団法人 生命保険文化センター
『「単独世帯」が約40%：高齢者の単独世帯の増加』
<https://www.jili.or.jp/kuraho/essay/2023/9280.html>
- 3) 平成30年 武蔵野市基礎統計
https://www.city.musashino.lg.jp/_res/projects/default_project/_page_001/020/449/02_kisotoukei.pdf



01 概要

本研究は、若年単独世帯のクリエイターと高齢者単独世帯が、創作活動を介して緩やかに関わる集合住宅の提案である。住居にアトリエ、ギャラリー、ショップ、カフェを併設し、つくる・見る・支える行為が日常的に重なる構成とした。外部来訪者も含めた開かれた環境を通して、世代の異なる人々が無理なく役割を持ち、孤立を防ぎながら関係を築く住環境のあり方を明らかにする。

02 敷地

南側には井の頭公園があり、公園へ向かう動線上には多くの人々が行き交う。古着店やカフェが並ぶ通りには若者が集まり、活気のある雰囲気形成している。

一方で、その通りから離れるにつれて人通りや店舗数は減少し、落ち着いた住宅街が広がる。対象敷地は、商業地域と住宅地域の境界に位置しており、賑わいと静けさの両面を併せ持つ特徴的な環境にある。

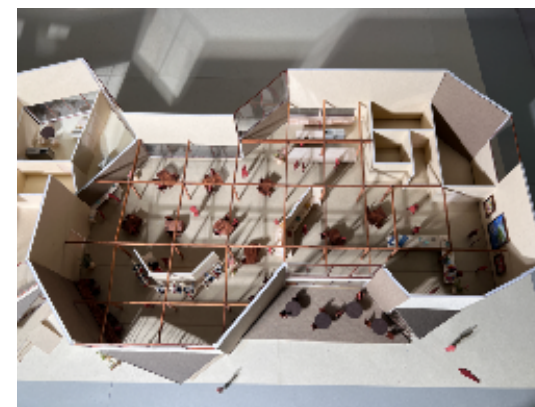


03 コンセプト

都市で活動する若年単独世帯のクリエイターと高齢者単独世帯が、創作と日常生活を介して緩やかにつながる集合住宅

×

カフェ、アトリエ、ギャラリー、ショップといった機能を複合させる。創作を見る・支える・関わるという関係性を日常化させる。



1階カフェ・ギャラリー



2階アトリエ

居住

高齢単独世帯 × 若年単独世帯の住まい

制作

若年単独世帯の創作の場のアトリエ

展示

若年単独世帯の創作物のギャラリー
地域、外部など不特定多数の人々が訪れる

滞在

くつろぐカフェ
営業時間外は高齢者の食堂などのコミュニティスペースである、住人である若年クリエイターが企画するワークショップスペースとなる

高齢者は若者の創作を見守り支え、

若者は創作を通して高齢者に日常の刺激と役割をもたらす。

両者が無理なく関わる関係性を組み込む。